さみだれ大堰ゲート不具合に関する現地調査・意見交換会

◆開催日時 令和８年８月２２日（土）１４：００～１６：００

◆開催場所 現地調査：さみだれ大堰、草薙頭首工
意見交換会：酒田河川国道事務所飽海出張所

＜現地視察・意見交換＞

１．現地状況報告
・河川管理施設の支障発生状況の報告

２．さみだれ大堰の対応
・施設修繕方法について
・堰上げ機能の確保について

３．取水設備の対応
・取水設備の効率的なやり方について

学識経験者及び専門家等　（順不同・敬称略）

機関名・所属・役職	氏名
山形大学　名誉教授　農学博士	前川　勝朗
国土技術政策総合研究所　河川研究部　河川構造物管理研究官	櫻井 寿之
国立研究開発法人　土木研究所 先端技術チーム　　上席研究員	味田　悟
国立研究開発法人 土木研究所　先端材料資源研究センター 材料資源研究グループ　上席研究員	百武　壮
さみだれ大堰ゲート点検整備業務 （株）ＩＨＩインフラ建設	高橋　直樹
さみだれ大堰ゲート点検整備業務 出光ｴﾅｼﾞｰｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ（株）　※元㈱ﾌﾞﾘｼﾞｽﾄﾝIPE ｺﾞﾑ堰ﾒﾝﾃﾅﾝｽ担当者	工藤　紀幸
さみだれ大堰調査検討業務 三井共同建設コンサルタント（株）	平　和博

さみだれ大堰現地確認状況



草薙頭首工現地確認状況



意見交換会状況



結果概要については次のページの通り

さみだれ大堰ゲート不具合に関する現地調査・意見交換会

さみだれ大堰3 号ゲート不具合対応に向けた学識経験者等による意見交換会 結果概要

１．３号ゲートの本復旧について

３号ゲートの本復旧は、かんがい取水が終了し、非出水期となる10月以降に着手することが適当と考えられる。

(1)現在の水位・流速条件では安全な施工が難しいことから、本復旧は非出水期となる10月以降に実施することが望ましい。

(2)現時点では営農に支障があるため、利水上、ゲートを全面的に倒伏させることが困難である。

(3) ３号袋体の損傷箇所を詳細に確認するとともに、バウンド現象等との関係も含めて検証し、長期的な施設管理や更新計画に反映させること。

２．喪失した３号ゲートの堰上げ機能の対応について

短期的には排水ポンプ車等による応急的な利水確保を継続するとともに、中長期的には袋体更新を含めた恒久対策を着実に進めること。

(1)予備ゲートの設置前に流速を低減させる対策を講じなければ施工そのものが困難であり、予備ゲート設置が可能な施工環境・安全面を確保する必要がある。

(2)現在、検討されている施工方法は実施上の制約が大きいため、より迅速に実施可能な代替手段（一時的なゲート操作等により流出を抑えた上で施工する案等）についても引き続き検討すべきとの提案があった。

(3)今後も渇水や大規模出水など不測の事態が発生する可能性があることを踏まえ、関係機関が連携しながら情報共有と対応検討を継続していくこと。

３．現在の草薙頭首工への排水ポンプ車による補給対応について

(1)現在実施している排水ポンプ車による補給対応は、現時点において妥当な措置であると考えられる。

(2)限られた水資源を有効活用する観点から、利水施設全体として運用ルールや優先順位を整理しながら対応すること。特に農業用水については、必要な箇所へ重点的に配分する運用を関係機関で調整することが重要である。

(3) 用水需要期が終盤に入っているものの、必要な農地へは確実に送水できるよう、安定した取水の確保に向けて、補給量の増強や追加対策の可能性について、引き続き土地改良区や関係機関との調整を継続すること。